

第1日曜日  
主日第一礼拝 9:00～  
主日第二礼拝 10:30～  
その他の日曜日  
教会学校 9:00～  
主日第一礼拝 9:00～  
主日第二礼拝 10:30～

# 日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2022 (令和4年) 5. 15

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276  
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会  
第2日曜日 礼拝後  
成人会  
第3日曜日 礼拝後  
婦人会  
第4日曜日 礼拝後  
教会附属 南部坂幼稚園

## 「新しい天と新しい地」

牧師 松谷 祐二

### イザヤ書 第六十五章一七～二五節

見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それらはだれの心にも上ることはない。

代々とこしえに喜び楽しみ、喜び躍れ。わたしは創造する。見よ、わたしはエルサレムを喜び躍るものとして、その民を喜び楽しむものとして、創造する。

わたしはエルサレムを喜びとし、わたしの民を楽しみとする。泣く声、叫ぶ声は、再びその中に響くことがない。

そこには、もはや若死にする者も、年老いて長寿を満たさない者もなくなる。百歳で死ぬ者は若者とされ、百歳に達しない者は呪われた者とされる。

彼らは家を建てて住み、ぶどうを植えてその実を食べる。

彼らが建てたものに他国人が住むことはなく、彼らが植えたものを、他国人が食べることもない。わたしの民の一生は木の一生のようになり、わたしに選ばれた者らは、彼らの手の業にまさって長らえる。

彼らは無駄に労することなく、生まれた子を死の恐怖に渡すこともない。彼らは、その子孫も共に主に祝福された者の一族となる。

彼らがかけるより先に、わたしは答え、まだ語りかけている間に、聞き届け。

狼と小羊は共に草を食み、獅子は牛のようにわらを食べ、蛇は塵を食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、害することも滅ぼすこともない、と主は言われる。  
(新共同訳聖書)

聖書の神は、その最初の一ページ目から、天地万物を創造された神として紹介されます。昼と夜、天空と深淵、陸と海、草花と木々、太陽と月と

星々、海の魚、空の鳥、地の獣、そして何よりも、神ご自身にかたどって創造されたという、わたしたち人間。神は心を込めてすべてを創造され、その出来栄えにいちいち「良い、良い」「非常に良い！」と喜びをあらわにされました。

しかし、その良さはすぐに台無しにされ、失われてしまった、と聖書は話を続けます。人間が神に不信感を抱いて反逆し、神と一緒にいることを放棄してしまつたのです。ストーリーの上では、人間が神に背いたきっかけは蛇に誘惑されたことだと語られており、この蛇は、悪魔とかサタンとか呼ばれる、罪と死にいざなう力の象徴と解釈されます。しかし、誘惑に抵抗せず屈してしまつたのは、他ならぬ人間です。

聖書はおそらくこう言いたいのです。初めの天地も人間も、神に喜ばれるものとして創造された。人間は、神と一緒に、神の喜びにあずかって、この世界と自分たち自身とを、心から喜び楽しむことができるはずであつた。しかし、現に今、わたしたちの知っている世界は、そんな喜び、楽しみに満ちた場所ではない。「非常に良い！」と言えるようなものではない。悲嘆、短命、殺し合いと略奪、労苦して得た実りも奪われるむなしさと、死の恐怖とが、わたしたちの知るこの世の特徴だ。いったいなぜか。わたしたち人間が、神に背き、離れ去つたからだ。神がどんなに初めの天地を、ご自分の似姿としての人間を、喜びとされたか、愛されたか。それを理解しなかつたわたしたち人間が、その「良さ」を台無しにしてしまつたのだ、と。

その神が、しかし、預言者を通して宣言されます。「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。」代々とこしえに喜び楽しみ、喜び躍れ。わたしは創造する。神がもう一度新たに創造される世界。もちろん、そこにある自然も、動物も、国々も、そこで生きる人間そのものも、その在りようもその生き方も、根底からまったく新しく造り変えられる。喜び、楽しみ、長寿、豊かな実りの享受、共存と平和、神の祝福が、この「新しい天と新しい地」の特徴です。

神はもう一度、今度こそ「良い、良い」と仰せになるおつもりです。とりわけ、新しくなつた人間をこぞ「非常に良い！」と喜び叫ばれるおつもりです。人間は、今度こそ神と一緒に喜ぶのです。「見よ、わたしはエルサレムを喜び踊るものとして、その民を喜び楽しむものとして、創造する。わたしはエルサレムを喜びとし、わたしの民を楽しみとする。」

「エルサレム」という現存する町の名が記されていますが、内容的に考えてこは、パレスチナ地方のあの町は特別な聖地である、というような意味に取るべきではなく、新しい天と新しい地の麗しさを象徴する理想郷、「天のエルサレム」の出現という意味で受け取るべきだと思います。

このような都を、このような「非常に良い」世界を、まだだれも見たことがありません。年輩者が「昔は良かったなあ」と思っていたが、あの古き良き時代が戻つて来たようだと懐古できる程度のもではありません。「初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることではない」ほど、神の御手によって新しく創造された世界だからです。聖書は、この新しい世界のことをさまざま名前前で――例えば「新しい天と新しい地」「聖なる都、新しいエルサレム」「来たるべき世」「御国」「天の国」「神の国」のように――呼んでいますが、その完全な姿を、わたしたちのだけれど、まだ見たことはありません。

しかし事実、イエス・キリストはすでに来られて、仰せになりました。

「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコによる福音書 第一章一五節) 信じる者は、この御国の民として生き始めることを許されます。またこども仰せになりました、「はつきり言っておく。ここに一緒にいる人々の中には、神の国が力にあふれて現れるのを見るまでは、決して死なない者がいる。」

主イエスよ、再び来たりませ。あなたの御国が来ますように。神が喜び、楽しみとしてくださる御国の民として、神と一緒に喜び踊るものとして、わたしたちを新しく創造してください。

# 二〇二二年度会計報告と予算の説明

六 戸 信次郎

今年度は三年ぶりに教会総会が開催され、教会員の皆様の前で前年度の会計報告と予算案についてお話をさせていただきました。が、総会に出席がかなわなかった皆様にも、この場で少しご説明をさせていただきます。

二〇二二年度の教会通常会計は結果として、二年連続して黒字を計上することが出来ました。西南支区の総会で所属のいくつかの教会で、財務状況が悪化し、支区から支援を受けた教会がある、との説明がある中、当教会が黒字で創立百周年の昨年の決算を終えることができたことは、神様のお守りと、教会員の皆様の多大な協力のおかげと、深く感謝しております。

二〇二二年度も、五月、六月と礼拝が教会堂で行えない状態で、教会会計も厳しい環境になると憂慮していましたが、一年を閉じた段階では、月定献金、特別献金の総額では当初予算予定とほぼ同額の献金が捧げられました。特に昨年度は複数の教会員のお祝い事（記憶ではここ数年なかった）が重なり、教会全体が温かい雰囲気になりました。また、特に予定しなかった百周年記念献金も捧げられ、黒字決算に貢献しました。また、森民代姉が天に召され、多額の遺産献金が森民代姉のご遺志に従って捧げられたことをご報告させていただきます（受領は二〇二二年度）。

支出の面では、外部説教者に対する謝儀がなかったため、伝道費が少なくなりました。また、諸集会費はイースターの墓前礼拝等がコロナウィルスにより中止になったことで減少し、また昨年度より月報を隔月発行にしたため、伝道費が削減されました。また、教会で礼拝が行われない間、郵便に

よる通信費の増加は前々年度同様でした。

特別会計は、遺産献金、牧師退職金積立金、オルガン献金、神学生献金の特別会計は、特に支障なく例年通り推移しました。会堂建築特別会計は、一年間で七十五万円を上回る積立があったほか、防犯カメラの更新を行い、費用を幼稚園と折半したため、残高は約八百八十万円となりました。また、墓地会計は、墓石のカビによる汚れを洗浄作業を実施したため、五十万円ほど減少しました。

さらに、百周年記念記念事業として、西南支区への献金と、記念誌の発行を行い、費用の六十三万円余りは予備費より拠出して計画通り実行しました。

さて、二〇二二年度教会予算の件ですが、相変わらず厳しい社会情勢が続く中、今年度予算をどうするか、役員会で論議されました。幸いにも昨年度の通常会計を黒字で収められたのを一つのチャンスとして、二〇一六年より減額されたままになっている牧師謝儀を少しでも元に戻すために、牧師謝儀の増額を計画しました。

昨年度の黒字といってもその中身は、お祝い事の献金による特別献金が多くを占めています。コロナ禍の混乱が収まらないまま、ウクライナの武力による侵攻は続いています。きびしい環境の中、皆様に更なる願いをするのは大変心苦しいのですが、今年度も教会員の皆様に、教会を支えるためのご支援をお願いする次第です。

## 報 告

\*三月十三日(日)午後、西南支区総会が行われ、すべての議案が可決、常任委員の半数が改選されました。当教会からは牧師と六戸信次郎役員が出席しました。  
\*教会員の酒井恵子姉が四月十三日(土)、男の子を出産されました。おめでとうご

ざいます。

\*四月十七日(日)午後三時より、多磨霊園内教会墓地にて復活日墓前礼拝を捧げました。また、墓前礼拝の中で、末永尚子姉の納骨をいたしました。

\*四月二十四日(日)礼拝後、定期教会総会が行われ、すべての議案が承認・可決されました。役員選挙では、以下の方々が選出されました。  
大司宣子、佐藤マリエ、佐柳理久、六戸健太、六戸信次郎、ヤング肇子(敬称略)

## 《各部報告》

### 成人会

日時 三月二十日 主日礼拝後

場所 教会堂会議室

出席者 四名

開会祈祷 菊池才知子姉

内容 創世記 三章〜五章

◆三章 蛇に唆されて禁断の木の実を食べ、アダムにも食べさせた女に、主は裁定を下された。出産の苦痛、女は自立できず男性に依存し、地上のあらゆる民族に共通の男性優位社会システムの確立である。アダムに対しては、主に従わず女の言いなりになったことで、食べ物を入手するため、労苦せねばならない(土が呪われた状態)。主なる神はアダムと彼によってエバと名付けられた女が、神のように不死身になることを恐れ、主の楽園から追放した。

◆四章 アダムとエバには二人の息子が生まれた。兄のカインは農業従事者となり弟アベルは羊飼いになった。主はアベルの捧げものに目を留められたが、カインのものを無視された。カインは激怒して顔を伏せた。主はカインの態度を咎められた。カインはアベルを殺すという罪

を犯した。主はカインを地上を彷徨い、流離う者とされたが、カインはエデンの東、ノド(さすらい)に定住した

◆五章 アダムの系図 六代後の子孫エノクは短命であったが神と共に歩み、幸せであった。八代後のレメクはノアを設けた。(菊池才知子 報)  
◆次回五月十五日六・七・八章下奥姉担当

### 婦人会

日時 三月二十七日 主日礼拝後

場所 教会堂会議室

出席者 九名

開会祈祷 菊池才知子姉

内容

聖書研究 列王記上三章〜五章十四節

◆三章 ソロモン王は政略の故にファラオの娘と結婚した。ソロモンはギブオン(聖なる高台の祭壇に千頭もの焼き尽くす捧げものを奉げた。その夜、夢の中で、何事でも願いを与えようと言われる主に、ソロモンは若輩の自分が王として民を正しく統治できる能力を、と願った。主はこれを喜び、求めなかった富と栄光と長寿をも与えるといわれた。ソロモンは目を覚まし、夢だと知ったが、エルサレムに戻り、主の契約の箱の前に立って、焼き尽くす捧げものと和解の捧げものを捧げ、宴を張った。ソロモンの裁きの例が語られる。この裁きによって王はイスラエルの民から畏敬されるようになった。

◆四章 ソロモン王の統治と繁栄の詳細が述べられる。

◆五章一〜十四節 ソロモン王の支配地域の拡大と繁栄が述べられる。また、主が与えられた知恵と洞察力、博学ぶりが語られる。(菊池才知子 報)  
二、その他 二〇二二年度婦人会会計報告が行われた。